

平成 22 年 11 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 22 年 第 9 回講話

やりたくないことは、やらない

おはようございます。

今日は最初に本をご紹介します。『定年上手』という本で、堀田力さんと森村誠一さんの対談形式で書かれている読み易い文庫本です。その中に気に入った文章がありましたのでご紹介したいと思います。私自身は、人生の予定表というものを 40 代で考えました。一生涯を前半と後半に分けて考えると、今現在は前半がそろそろ終了するところです。その予定表で、自分で決めた考え方として、<やりたいことをやりたいようにやって、人様の迷惑にならず、世の中の役に立ちたい>と欲張ったことを考えて、ずっと現在まで通ってきています。今後もそう生きたいと思っています。人さまに迷惑をかけないという部分は、時々身内から迷惑をかけられていると反論が出ますが、それはミクロの話で大勢に影響はないと思っています。

この本の中で良いなと思ったのは、定年までは色々な柵があって、やりたくないことでもやらなければならないが、定年後はやりたくないことはやらない。それが精神的に非常に良くて、健康を維持する最大の処方箋であるということが書いてあります。特に冠婚葬祭やお付き合いのパーティーなど、定年前は行かなければいけないけれども、定年を過ぎたら心から行きたいと思う時だけ出かければ良いという文章があって、私が日頃言っていることを裏返したような科白だったので、なかなか良い本だと思いました。

皆さんはお葬式の連絡を戴いた時に、参列しようかしまいか迷いますか。それとも即断できますか。どちらが良い悪いではありません。以前は私も行くか行かないか、結構悩みました。途中で、非常に単純明快に割り切りました。義理や柵で行かねばならないかなと思う時にはやめる。最後のお別れをしたいと思ったら行く。そう決めたら気持ちが楽ですし、即断もできます。

今朝の雑感 - 日本人は本当によく休むようになりました -

今朝、私はりょうもう号で足利に来たのですが、いつもはガラガラの座席が今日は満席でした。あさっての月曜日をお休みにすると 4 連休になるので、自発的にお休みを取る人が増えたのでしょう。

日本人は昔に比べると、本当によく休むようになったと思います。もともと農耕民族で額に汗して休みなく働く・・・それが日本人の美德であり、そういう民族であったはずなのですが、世界に冠たるお休みする民族に変わってしまった。休みが実に多いと感じます。尚且つ、政府は国民に「休め、休め」と奨励を通り越して強制しています。「休め・休め」という法律を整備する為に、官庁の中級官僚の一部は徹夜作業で仕事をしている。やはりどこかおかしくなっています。日本の国全体に歪みが出ていると思います。

国は「休め、休め」と言い、休まないところは罰する。そういう考え方がかなり出ていますので、おかしい国だと思います。今の子供たちは、休むのが当たり前という価値観の中で生まれ育ってきているから、一世代、二世代後の日本人は何と働かない民族だろうという評価に変わるだろうと思います。そしてもっともっと落ちていって、底まで行き着いてから再浮上するのだろうと思います。

嘘をつかない一年でしたか・・・

では、恒例の質問です。来月は 1 年分まとめてお聞きしますので、今日は予行演習の意味で、1 月から今日までを振り返って考えて戴きたいと思います。

今年 1 月から今日まで、嘘をつかない 1 年だったと言える方？

(・・・手が拳がらない)

次の質問も 1 年で考えて下さい。これは取捨選択して、1 年間の中で自分の心が温まるようなホッとする良いことがあれば、いくら悪いことがあっても全部帳消しして、良いことだけ記憶すればよいでしょう。ではお聞きします。

今年 1 年間、良い年だったなと思う方？

手が拳がらない方に、もう一度念押しをしておきましょう。例えば、皆さんも夫婦喧嘩をするでしょう。夫婦喧嘩した直後は相手の良いところが見えません。悪いところばかり思い出すと、悪い日になります。しかし落ち着いて考えれば、ちょっとは良いところがあるものです。秤にかけて良い・悪いというのではなく、良いものが少しでも見つかったら悪い方をふっと消して、良いところだけを見るようにする。良いところを見つけたら拡大解釈して、悪いところを見つけたら忘れるようにする。良いところを見つけるのも、一つの技術だと思います。そうやって自分の気持ちを良い方向に切り替えていけばよいと思い

ます。来月、又お聞きしますので、出来る限り良かったと思えるものを思い出して並べてみるとよいでしょう。

今年1年間を振り返って、「有難う」と言うこと、「有難う」と言われることが多かったなと思う方？

首を傾げた方がいらっしゃいましたが、来月もお聞きしますので、無理矢理見つけてきてください。

自分の旬はいつか・・・

基本哲学の知足（足るを知る）というのは、ほどほどです。今の民主党政権、菅さんは何もそんなに総理大臣にしがみつかななくてもいいじゃないかと思います。一つの内閣で何か一つ出来れば良しとして、さっさと退陣しても悪くはないと思います。あれだけ無様にしがみつくことはないという気がします。柳田法務大臣も同じです。自分が失言というミスをしたのだから、さっさと辞めればいいじゃないかと思いますが、足るを知らないからいつまでもしがみついていたと思う。ほどほどで辞めればよいのに、そのほどほどが出てこないのです。

我々が生きていく上で、ほどほどがあればよいと思います。最近残念な例がありました。今年の夏、日本郵便のゆうパックが著しく遅れたことがありました。一つの原因として、郵政にペリカン便が吸収された時に、荷物を配りきって引継ぎをしたのならよかったです。荷物を止めておいて何日分かをまとめて渡したものだから遅配を起こしました。もう一つの原因は、現場サイドで見ると、今まで普通にこなしていた仕事量の10倍の仕事が降って湧いてきたのですから、こなせるわけがない。必死になって設備を作り、荷物を受け容れられるセンターを作ったり、外注さんを探したり、色々な手立てを尽くしたけれども、悲しいかな巨大組織というのは、トップにいて指示を出す人と、現場の課長・係長クラス或いは実務をやる人たちとの間の情報が断絶されている。上の方は支持を出したからきちんとやっていると思っているけれども、下の人間は10倍の仕事をこなせるわけがないのです。

巨大な組織になると、上にいる人間と、真ん中にいる人間と、実務をやっている人間のコミュニケーションがうまく図れない。本で読みましたが、クロネコヤマトの社長が一番苦労したのは、社員と意思疎通を図ることだったそうです。コミュニケーションをとれるようになるまでが一番大変だったと書いてありました。

民主党政権も民主党内部のコミュニケーションがとれない。国会議員全体のコミュニケ

ーションもとれない。いわんや国民とのコミュニケーションなど到底無理という現状だろうと思います。その根っこにあるのは、もっと欲しい・もっと欲しいという我欲があるからです。

知足とは、自分の分を知る。それは旬を知ることでもあります。人間も旬がありますから、自分の旬を考えるとよろしい。会社に勤めている人であれば、だいたい50代前半で旬が終わります。55歳を過ぎると、体力・体調にかけりが見えてくる。60歳をすぎたらロートルです。ほどほどに自分の体力と相談しながらやっていかなければなりません。60歳過ぎてからが旬だという人もいますが、それは頭の方で、体力的には完全にかげりが出てくるものです。自分自身の旬を知ったら、だんだん身を引いていくことを考えなければいけません。会社や組織、個人や家庭にあって身の引きどころを考えるには、自分の旬はいつかということを考えるがよいと思います。

論語の視点

今日の論語は雍也第六の25～28です。

【二十五】 しいわ子曰く、くんし君子 ひろ博く ぶん文を まな学び、これ之を やく約するに れい礼を もつ以てせば、またもつ亦 そむ以て そむ畔かざるべきかな。

孔子が言うには、学問を志す人はできるだけ多くの文献を読もう。知識を礼という理念で統一するならば、正しい道から外れることはない。

渋沢栄一さんの解説がおもしろいのでご紹介します。

礼の理念で統一するということで、大隈重信と江藤新平を例に出しています。

江藤新平については、あれだけ博学の人間はいないが、人間性があまり良くなかったと言っています。他人を見る時に欠点や問題点ばかりを見て、長所は探さない。確かに江藤新平はその性格がたたってか、最後は畳の上では死ねませんでした。佐賀の乱を起こして捕まえられてしまいます。おそらく担がれたのでしょう。大久保利通が後にいて、即座に斬首の刑に処せられました。いくら頭が良くても性格が悪ければ駄目だという例を出しています。

大隈重信については、口から先に生まれたような人で、しかも物事を生齧りで断定するから、世の中の人から見ると言っていることとやっていることが違う、ほら吹きに映ってしまう。世の中からいま一つ信頼が得られなかったのは、一知半解の人だったからだと言

っています。これは「之を約するに礼を以てせば」という考え方と著しく違うからだと説明しています。

又、上杉謙信と武田信玄の違いについても語っています。両者相見える時に、武田信玄は馬上から、上杉謙信は馬から降りて礼儀を尽くそうとした。二人の大將の性格を比較すると、上杉謙信の方が良いと言っています。

更に、「実業家は礼の理念で統一し行動するならば、失敗はなかるう」と書いています。嘘はつかないで実業の道を進んでいけば問題は起きない、と渋沢栄一さんはこの論語を解釈しています。

翻って我々は、<今日も一日嘘をつかなかったかな>と考えて行動しているわけだから、中斎塾フォーラムは<嘘はつかない>ということで統一できます。政治家や実業家、世の中を見回しても、嘘はつかないと胸を張っていられる人は非常に少ないだろうと思います。嘘をつかないと夫婦は和合、会社の中でもうまく収まります。ですから他の人にも教えて戴くとよいと思います。

【二十六】 し なんし み し ろ よろこ ふうし これ ちか いわ よ ひ ところ 子 南子を見る。子路 説 ばず。夫子 之に 矢いて 曰く、予が 否なる 所 あら
てん これ たた てん これ たた ば、天 之を 厭ん。天 之を 厭んと。

論語の中には孔子の下半身についての話は出てきません。この南子だけがちょっと色っぽい話で出ています。

南子は、衛の靈公の夫人です。淫婦と書かれていますから、ちょっと良さそうな男がいれば色目を使ってなびかせようとする類の女性です。

子路が、「なぜあのような女性に会うのですか」と孔子に詰問したわけです。先生の名声に傷がつくではないか。ああいう女性にあってはいけないという子路に対して、孔子が「私がもしも邪な気持ちで会うようであれば、天が私を罰するであろう」と答えています。

孔子の言い方が何か後ろめたいような、会いに行っても良いではないか・・・と、しどろもどろに答弁している感じが浮かびます。

つい先日、中国で日本の有名企業の社員が売春ツアーをして逮捕されました。尖閣諸島の問題のさ中、ちょっと間違えれば人質にされ、下手をすれば命をとられることもあり得ます。中国という国は、その場のご都合主義で人を死刑にしています。ついこの間も、文化財を管理する中国の役人が文化財の横流しをして利益を懐に入れたということで、一罰

百戒で死刑になったと新聞に出ていました。

この文章は、孔子もそういうことをするのではないかと子路が勝手に勘ぐって、孔子に詰め寄ったわけです。孔子は多少腹に何かあったのでしょうか。しどろもどろで答えているおもしろい部分です。

【二十七】 子曰く、中庸の徳為るや、其れ至れるかな。民鮮きこと久し。

多過ぎもしないし足りなくもない。バランスをとってちょうど良いところにいるのが「中」です。「庸」とは平です。

孔子が言うには、中庸の徳というのは完全無欠でこの上ない徳である。国民の中に中庸の徳をもった考え方がなくなって、久しい時が経った。

このままではこの国はどんどん悪い方向に進んでいく。何とか徳をもった聖人が現われてほしいものだ・・・と、次に出てくる堯と舜の聖人の世界を実現させたいと願っていた孔子が、自分の考え方と反対の方向に世の中が進んでいることに対して齒噛みをしています。

【二十八】 子貢曰く、如し博く民に施して能く衆を濟うこと有らば、何如。仁と謂うべきかと。子曰く、何ぞ仁を事とせん。必ずや聖か。堯舜も其れ猶諸れを病めり。夫れ仁者は、己立たんと欲して人を立て、己達せんと欲して人を達す。能く近く譬を取るは、仁の方と謂うべきのみと。

子貢が「国民に恩恵を与えて大衆を救済できるならば、仁と言えるでしょうか」と聞きました。

子貢は頭がよく、目から鼻に抜けるタイプのお弟子さんです。

孔子が答えるには、「国民に恩恵を与えて大衆を救済できる人間がいるならば、仁に留まるものか。しいて言うなら聖人であろう。聖人の皇帝と言われる堯や舜ですら、悩みの種とされた。自分が身を立て志を立てようと思うなら、まず他人を引き立てようとする。自分が何か大きな仕事を完成させたいと思ったならば、まず他人を成功させなさい。ちゃんと我が身に置きかえて考えられたら、仁を行なう方法といえる」

堯・舜がここまでやったということであれば、今の民主党政権で考えてみます。「己立たんと欲して人を立て（自分が身を立て志を立てようと思ったら、まず他人を引き立てよ

うとする)」。・・・菅さんは出来たでしょうか？ 自分が総理大臣になりたいと思ったら、ひたすら口をつぐんで目立たないように小さくなっていて、そのチャンスが来た途端に立候補しました。正反対の動きです。小沢さんも同じです。

「己 立たんと欲して人を立て」という文章は、後々役に立つと思います。自分で何かしよう、身を立てよう、この仕事を成功させようと思ったなら、まずそれに関係している近い人を成功させるようにお手伝いをしなさい。そのようにこの論語を読めばよろしい。

ちなみに中国の人たちは、これだけ論語に良い言葉が書いてあるのになぜ実行しないのでしょうか。論語に書いてあることと正反対のことばかりしている気がします。

時事問題 - 迷走するバス -

今の日本の状態を、私はこんなふうに考えています。長距離運転の巨大なバスが高速道路を走っています。乗客は日本人で、皆それぞれ思い思いのことをしています。運転手は菅さんです。ところが運転手は脳梗塞になって、目は開いていますがゾンビのような状態です。これが今の日本の実態だと思います。高速道路でスピードが出ていますから、ガードレールにぶつかって、そのうち崖下に落ちるが、反対車線に入って正面衝突するのが避けられない状態だと思っています。

この譬えは船でもよいのですが、船だと逃げ出すまでに余裕があるのです。タイタニック号の映画をご覧になったことがありますか。タイタニック号の場合、船倉にいる低所得者層は上流階級の人たちに会わないように途中で柵があって、上には上がってこられないようになっていました。船の場合は、沈み始めると一気に船尾があがって二つに割れて沈んでいくけれども、沈み始めるまでは結構時間があって、人間も右往左往しますから逃げなければいけないと自覚できるし、逃げ出す時間も取れるわけです。今の日本の状況は、タイタニックのように逃げ出す時の余裕はありません。かといって、飛行機のように待たなしで落ちているかということ、そこまではいいません。

そうなるとやはり今の日本の状態はバスで、菅運転手は脳梗塞でハンドルから手が離れていて、ガードレールにぶつかりながら惰性で運転している。しかしよく見ると仙谷さんが二人羽織りのように手だけを出して、ハンドルをちょこちょこっと動かしている。ですからいっぺんにガードレールを突き破って下まで落ちていない。何とも危なっかしい状況が今の日本だろうと思います。

新聞の見方

今日の新聞でおかしい思ったことは、高所得者の金額です。介護保険の改正について「高所得者 320 万円以上は・・・」という記事がありました。320 万円以上で高所得者と言うのかと思って驚きました。よく読んでみると、年金を主として生活をしている 65 歳以上の人達では、320 万円以上が高所得者と位置付けされているようです。

配偶者控除については高所得者といわれる金額が違います。1000 万の高所得者という表記がありました。3 歳未満の子供に対して支払われる子供手当では今、1 万 3000 円です。2011 年度の予算では 2 万円に増額するので、そのための財源が 2500 億円不足している。その 2500 億円をどこからもってくるかで、政府は配偶者控除に目をつけたわけです。配偶者控除を廃止することによって 2000 億円弱の財源が捻出できる。ただ全員の配偶者控除に手をつけるのではなくて、年収 1000 万以上の高所得者から配偶者控除をカットするということです。

介護保険の記事では 320 万円以上の高所得者、配偶者控除カットの時には 1000 万円以上の高所得者とありました。そしてもう一つは、「専業主婦で子供が 1 人という世帯で子供手当を出さずか出さないかの基準は、年収 817 万円を目安とする」とありました。817 万円以下は低所得者で、817 万以上の世帯は高所得だという分け方です。

従来の日本、昭和の後半は 1 億総中流と言われていました。それが今はどんどん低所得に変わってきています。低所得というのは 200 万以下です。更に、生活保護世帯が凄まじい勢いで伸びています。各自治体の予算は、生活保護費に脅かされています。予算を組んでも、半分が生活保護に回ったのでは他のことに使えませんから、硬直化したままです。

ということで、今の時代よく気をつけて見ていないと高所得者層・低所得者層の規準がご都合主義で、その時その時で発表の仕方が変わります。自分で自分の金額をしっかり見定めておく必要があると思います。はっと気がついたら、とんでもない税金を取られるようになる。例えば、年金を貰っている人もおられると思いますが、65 歳未満では賃金と年金額の合計が 28 万円を超えると年金をカットされます。65 歳以上は 48 万円以上の収入があると年金がカットされます。やはりおかしいと思います。一所懸命働けば働くほど年金は減るのが今の日本の国ですから、働くな働くなと言っているようなものです。しかしこれも抜け道があって、あちこちが穴だらけです。その穴を活用している人がかなりいます。年金に関してはおかしな仕組みになっていると思います。

又、税金の仕組みもおかしいと思います。税務署は目の色を変えて、何が何でも税金を取ろうとしています。例えば、売上げが伸びて利益が出たから役員のお給料を上げようと

思うと、税務署が通らないのです。年1回、株主総会後でなければお給料が上げられない。逆に売り上げが急降下したからお給料を下げたいと思っても、税務署は認めない。税務署という所は硬直化していて、一回決めた税金は何が何でも取る。無茶苦茶だと思います。論語に「苛政は虎よりも猛なり」という文章があります。孔子が山の中を歩いていると、子供を虎に食われて泣いている老婆に会います。孔子がどうして虎のいない場所に引っ越さないのかと聞くと、「他所の国に行けば、重い税金が待っている。ここは税金が安いから、重税よりは虎の方がましです」と答えたという話です。日本でもこんな話があります。河井継之助が山田方谷に弟子入りをしようと旅をして、備中松山藩の隣の藩に宿に泊まった。その飯盛り女が「私は隣の備中松山藩に生まれたかった。備中松山藩のように税金が安ければ、身を売ることをしないで済んだ」と言ったという逸話があります。山田方谷は理財論の中で、「その国が滅びる時は、税金をとんでもない細かなものにまでかけるようになる」と言っています。

先ほど、菅運転手は脳梗塞だと言いました。国を構成する要件は、領土と国民と政府です。領土があって国民がいて行政府があって始めて、国家として認められます。この領土が今、削られています。以前フォーラムでお話したように、北海道はロシアが狙っています。沖縄は中国、台湾、もしくは韓国、北朝鮮が欲しいと思っている。

中国は制海権も押さえたいとっていて、太平洋の真ん中に線を引いて、一方はアメリカで片方は中国が押さえたい。つまり日本全部を植民地化したいとっています。これらが今、表面化してきています。尖閣諸島の問題は、明らかに日本の領土を取ろうとしています。その時の弱腰を見て、ロシアが北方領土にちょっかいを出して、それを足がかりに北海道を欲しいと思っている。北朝鮮は何でもよいから取れるものを取ろうとして、テポドンを打ち込んでくるはずです。拉致をしても平氣な国ですから。

このように領土は侵されっぱなし、国民の命を守ってもいない。外交面で見ると、どんどん国家としての体をなさなくなって来ています。

国内についても、民主党が出している色々な案件が皆、駄目になってきています。昨日、岡田幹事長が民主党の総会で「国会議員の歳費 1 割削減を他の党にも呼びかけたい」と発言し、無理やり承認をとりました。5割カットであれば国民も納得するでしょうが、今頃になってたった 1 割とは何を考えているのか。そういう反応しか出てこないと思います。民主党のやっていることは全部後手に回るし、やればやるほど悪循環を起こしている。何か新しいことを民主党が言い出したならば、眉に唾をつけて聞くということではなくて、<これはきっと駄目になる、駄目になるとしたらどういうふうになるのか、それが自分た

ちの家庭にどう影響するのか、自分の経営にどう影響するのか・・・>という見方で世の中のニュースを見ていないと怖い。

これからの世の中はどうか、良い方向と悪い方向の 2 つを見なければいけないと云うけれども、もう自動的に悪くなる方向を見ていった方がよいと思います。なぜならばマクロの流れとして、日本はどんどん悪くなっているからです。民主党は日本の国を悪くするための動きしか出来ないような流れに入っています。菅さんも仙谷さんも日本は中国の属国・実質的な植民地であると思って、それをチョロっと発言の中に滲ませているから、日本が独立国として進んでいくような動きは、民主党政権の間はまずないだろうと思います。

民主党政権である限り、日本の国は脳梗塞の運転手がバスを運転しているようなもので、もしかすると民主党政権の間に坂道を転がり落ちるかもしれません。私はかなり前から、「来年（平成 23 年）の暮れには日本がどうにもならなくなってくるということを誰もが自覚できるようになるだろう」と言っていますが、暮れを待たずに転がり落ちる可能性もあると思っています。来年まで順調にもったとしても、色々な兆候がいくつもいくつも出てきます。

小沢さんがここ 4 日間、新人議員と会って、「破れかぶれ解散をする可能性が非常に高いから、解散総選挙に向けて用意をしておけ」と発言をしているようです。小さな記事で出ていました。新聞を読む時には出来る限り小さな記事、ベタ記事やコラムを意識してご覧になるとよしい。その中におっ！と思うものが沢山あります。

大きな見出しで書いてあるものは、マスコミが意識するしないに係わらず、国民に既成事実だと捉えさせる効果があります。ですから大きな見出しは、なぜこんな事を書くのかと一度疑ってかかるとよいでしょう。大きい見出しには必ず裏がありますから、その背景を見ることです。そういう新聞の読み方をされると良い。

雑誌も悪くはないと思います。先日、日経ベンチャーという雑誌に桐生の部品会社の記事が出ていました。スバルが地元で仕事を落とさなくなった。その会社は年商 50 億円で、約 4 割がスバルの仕事だったので何とかしなければならなかったところに、緊急の注文があった。これはチャンスだということで、社員の人徹夜で取り組んで納期を間に合わせたわけです。短期間で納品が出来る会社ということで評判を呼んで、仕事が沢山くるようになったそうです。

そう考えると、生き残るためには自分自身だけの特徴のあるものを出す。会社経営の場合、他の会社でも出来るものは簡単にその仕事がなくなってしまうから、その会社でしか

できないものを見つけ出すことだと思います。一度、自分の常識を覆してみないといけません。自分たちの今までの常識では考えられないような利益の出し方、しかもオンリーワン。これを考えないと生き残っていくのはなかなか難しいだろうと思います。

本日の講話は終了です。有難うございました。